

○日本と中国のギャップについて

2年生 T君

・スマホ決済の普及

中国では現金を使う機会がほとんどなかった。どこの店にも QR コードが貼られていて、それにスマホをかざすだけで支払いが終わっていた。また屋台でも同様のシステムだったことには驚いた。日本でも最近 LINE Pay 等が流行り始めているが、いずれ普及していき同じような感じになると思うとワクワクした。



・交通網



左の写真はバスの路線図である。1つの停留所に10台以上それぞれ行き先の違うバスが来ることが分かる。そこで自分の乗りたいバスがどれなのかを判別するためにアプリを使って、今乗りたいバスがどの辺を走っているのか、いつ着くのかを検索していた。

また、地下鉄ではICカードは、もちろん顔認証で改札を通っている人もいた。いずれも驚きでいっぱいだった。

・自転車について

佛山では写真のように同じ種類の自転車が数えきれないほどあり、あちらこちらに見られた。これは日本でも少し見かけるようになったレンタル自転車である。各々にある QR コードをスマホで読み取って、自分の行きたい目的地まで使用できる画期的なものである。



さらに印象的な所は電気モーターが搭載されており、ペダルを漕がなくても自動で動く所である。バイクのようにアクセルを入れると坂道でもぐんぐん進むので便利だった。スピードは非常に速いが、道路も日本よりも3, 4倍ほど広く、自転車専用道路もあるので快適に走行できた。またセグウェイや電動一輪車を使っている人もいた。

・語学について

中国では幼稚園の時から英語を学んでいるようだ。そのため、日本語や韓国語といった言語を大学生になる前から学んでいる人も多い。私は日本語の塾に連れていってもらった。皆さん、とても優しく、日本についてたくさんの事を知っていた。彼らと話す時間はとても楽しかった。



~生活習慣~

2年生 H君

長田高校と仏山第三中学校との交流事業で、私は12月19日から24日までの間、平日はホームステイ先のバディと授業を受け、休日はホストファミリーと共に過ごした。その中で、私が実際に体験した”中国の生活習慣”についてまとめる。

○”昼寝”の習慣

中国では昼食後のおよそ午後1時頃から昼寝をする習慣があり、仏山第三中学校においても昼休みが長めにとられ、生徒は全員昼寝専用の校舎にて昼寝を行っていた。校舎内には二段ベッドが並んでおり、布団の類は見当たらなかった。また、学校に限らず私のホストファミリーは休日も昼食後に昼寝をとっていた。睡眠時間について厳密に決まっておらず、一例ではあるが私のホストファミリーはおよそ3時間程の睡眠をとっていた。



○”室内での過ごし方”の習慣

日本では靴を玄関で脱いでから家へ上がることは当然だが、中国においては土足で過ごすことが多い。しかしながら、全ての家庭において靴を脱がないわけではなく、私の滞在先の家庭には少し広めの玄関のような空間があり、そこで土足から分厚めのスリッパに履き替え、室内はそれで過ごした。ただ、床に座ったり、スリッパを脱いで床に足を着けるようなことは止めるように言われた。

○”食事”の習慣

平日、休日問わず、基本的にはレストラン又は市場等で購入したものを朝昼晩の食事としていた。街にもそういった「手軽に買える、安い料理」の店が多く、市場では野菜や肉等の食材以外に、調理済みの食品が多く並んでいる印象を受けた。また、レストランでの



食べ残しは袋に入れて持ち帰る習慣があり、それらを家での食事の一品に加えることもしばしばあった。

○”予定”の習慣

中国では、日本ほど予定を厳密に守ろうとはしていなかった。予定に無い、急な思いつきで他のホストファミリーとバーベキューをすることになったり、休日に訪れる場所が、突然、聞いていた行先と全く違うところになったりといったこともざらにあった。

○料理について

2年生 Aさん

・食材

広東料理は食材の持ち味を活かすような味付けで、あっさりしているものと甘味の強いものがあり、とうもろこしやココナッツやサツマイモなどの、元の味が甘いものを使って甘味をだしていた。スープやお粥鍋のお粥が結構甘かった。食材の持ち味を活かすことを重視しているため、野菜はシャキシャキした食感・魚や肉は骨付きのまま出されることが多かった。骨を取り除きながら食べるので、“動物の命をいただいている”という意識がより強くなった。私が訪れた広州では、鶏肉・豚肉・牛肉のほかにも、アヒルやカエルの肉を食べた。アヒルの肉は鶏肉と似たような食感で、カエルの肉は弾力があった。鶏肉はもも肉むね肉だけでなく、左の画像のように足も食べた。盛り付けられたお皿に鶏の頭が乗っていることもあった。



・飲茶文化

朝ごはんの時間帯から昼ごはんの時間帯に飲茶をするのが一般的で、温かい食べ物が多い。日本でもよく食べられる、焼売や餃子、ワンタンなどは点心に分類されて飲茶のときに食べる。餃子は日本では焼餃子が主流だが、中国では水餃子のほうがよく食べられる。肉まんの中身が野菜バージョンのものもあった。



・レストラン

テーブルそのものが大きいのでターンテーブルを回してとりたいたおかずをとる。お皿はお湯に入れて煮沸してから使ったり、

用意されたお茶で自分で洗ってから使った。

・その他

一般的に食事中に冷水を飲む習慣がなく、レストランでも家でも温かいお茶かお湯を飲んだ。日本のように一度の食事でたくさんお皿を使うことはあまりなく、スープを入れていた器に白米やおかずを入れる。平皿は用意されているが、ガラ入れとして使うのが一般的である。お箸は遠いところの料理も手を伸ばして取れるように長く、日本のお箸と比較すると太い。白米は日本でよく食べられるものと比べると細長い、味や食感はあまり変わらなかった。朝ごはんは日本のようにガッツリ食べることはなく、一品であることが多かった。食事中のマナーは日本ほど厳しくなくて、家によって異なることを聞いた。いろいろな面で日本との違いをたくさん発見でき、楽しい食事だった。

ホームステイについて

1年生 K君

今回は、僕にとって初めてのホームステイだったということで、英語の成績も悪い僕はバディと喋れずにホームシックになってしまうのではないかと不安で頭が埋め尽くされていました。しかし、実際にお会いすると、バディは、英語で通じないと分かると、次はジャスチャーや翻訳アプリを使って話しかけてくれ、彼の両親は英語ができないながらも、懸命に話しかけてくれ、頭を埋めつくしていた不安はあっという間に消え去っていました。

受け入れて頂いた家族は、バディと彼の両親の3人家族でした。一人っ子政策が行われていた影響か、彼の友達もやはり3人家族が多く見受けられました。彼らが住んでいるのは彼らが生まれ育ったホームタウンではなく、勤務先や学校の近くのマンションを購入し、長期休みのタイミングで彼らのホームタウンに帰るそうです。彼のいとこの家族も、近くに住んでおり、頻繁に外食を共にしたり、僕らが滞在していた冬至の日の祭りにも、彼らの家でパーティーを共にしました。その時見つけたバディの5歳のいとこが遊んでいたおもちゃが日本の企業!?らしきおもちゃであったり、彼らの乗っていた車も日産であったので、日本で有名な企業の一部は中国でもやはり有名なのだと感じました。



彼らの住居は日本の作りとは特に違いはありませんでしたが、1つだけ驚くことができました。それは、この写真のようにトイレと風呂場が横に並び、何も考えずに歩くと便器に足を突っ込みしまいそうな、そんな作りでした。また、玄関やリビングには「福」やそれを逆さにした飾りが多く飾られており、それらは縁起物とされているようで、街中でもこうした縁起物が多く見られました。その中でも「囍」という漢字は、日本でもラーメン鉢の底にかいてあったりと、親近感の湧く物もありました。

最後に、この6日間で英語力は勿論、中国の文化や生活、正確に伝える難しさなど様々なことを学び、経験することができました。これらは自分にとって、とても大きな刺激となったと思います。今回得たものをこれからの将来に活かし自分を高めていきたいと思っています。谢谢！



【インターネット】



外国人がTVに出演できなかつたり音楽番組やバラエティー番組が極端に少なかつたりと、中国のTV番組には多くの規制がある。そのため、音楽を聴いたり番組を視聴したりする際のツールは基本的にインターネットである。中国では海外のアーティストやアニメの人气が近年高まっていて、特に日本のポップカルチャーは中国の高校生の間でも有名なようだ。日本で放送されたアニメやドラマはすぐBilibili（中国版ニコニコ動画）等にアップされるため、日本とほぼ同時期に視聴できるという。中国はインターネット規制も多くあり、中国のサイトやApp以外は使えないイメージに行く前は持っていたが、海外のサーバに繋いでLINEやTwitter、Instagram等を利用している生徒もいて驚いた。

【街中】

中国の街を歩いていると、日本の街では見られない光景をたくさん目にした。例えば公共自転車。道端の至るところに停まっていてQRコードでロックを外せば誰でも自由に利用できる。驚いたことにそれらのほとんどが一般的な自転車とは違う、いわばバイクのような自転車で、ハンドルを回せばペダルを漕がずに進むことができる。寮生活をしている高校から家に帰る時や、電車の走っていない場所へ移動する時などに便利だそうで、高校生に限らず多くの人利用している。その他にも日本では見かけないような乗り物も多く見かけた。



【商業施設】



左の写真は一見すると公衆電話のようだが、実はカラオケボックスで、1室あたり最大2人まで入ることができる。駅の近くや商業施設の近くなどで多く見かけた。遊びに行く時、待ち合わせの空き時間などによく利用するのだとか。

日本の女子高校生が遊びに行ったら撮ることの多い“プリクラ”。中国の商業施設でも、右の写真のような機械がたくさん設置されていた。これはsnow×チェキのような機械で、加工した写真を撮ってそのまま印刷することができる。



<まとめ> 実際に生活してみて、中国の機械化の凄さをひしひしと感じたが、その一方で中国の高校生の流行は日本の高校生と大して変わらず、とても親近感を覚えた。

佛山第三中学校の生活

2年生 Wさん

私が佛山第三中学校の授業に参加させていただいて思ったことは、生徒の皆さんが積極的に授業に参加していていたことです。

例えば、授業の内容に関して主体的に発言していました。また、発言する時の声も大きく、日本の生徒と違う部分が沢山ありました。

授業の形式も違う点が多く、英語の授業では先生がほとんど英語で授業を進められていて、中国語はあまり使われていませんでした。1クラスの人数が多いからか先生はマイクを使って喋り、プロジェクターが全教室に設置されているなど施設や設備も充実しているように思いました。

また、普段の生活のことも教えていただき、普段は夜10時まで教室で自習や課題をしていること、寮での生活や休日の過ごし方についても知ることが出来ました。

特に私が驚いたことは日本に比べて朝が早い代わりにお昼休みがとても長く、自分の寮の部屋に帰ってお昼寝をしたりシャワーを浴びたりすることができるということです。日本でもお昼寝や体操の取り組みは聞きますが、公立の中学校で大人数が行っていることに衝撃を受けました。



私は、佛山第三中学校に行かせていただく前までは中国は海を挟んだお隣の国で、歴史の中で長い関わりがあるという印象で、中国についてあまり知りませんでした。ですが、今回多数の佛山第三中学校の生徒の方々と交流して、拙いながらも英語でコミュニケーションを取ることで中国についての理解がいつそう深まりました。

佛山第三中学校の生徒の方々は日本の生活、そして漫画や小説、アニメなどについて沢山英語や日本語で話しかけて下さり、とても社会的で明るい方ばかりでした。そのような方と交流をすることで、自分の見聞が深まりました。私が今、日常の多くの時間を過ごす学校という場所で外国の文化を知り、異文化交流をして親睦を深められたことは私の人生の中でもまたとない良い経験になりました。

今回の交流で得た経験を自分の将来に役立てられるよう、これからも努力をしていきたいと思いました。

佛山・広州の名所

1年生 Fさん

私はこの訪問を通して、いろいろなことを学び、とても新鮮な体験をした。やはり中国といえば、歴史ある建物やいろいろな名所に訪れる人々が多いのではないかと思う。そこで、私は訪れた名所について書きたいと思う。



まず、広州で有名な建物といえば、広州タワーではないだろうか。私は広州タワーの名前だけ聞いたことがあったが、観光名所といっても、どうせ高いだけだろうと思っていた。そこに訪れたときの第一声はやはり「高い」。しかし、私が訪れたことがあるタワーよりも遥かに高い。高さは600メートルだ。近くにある神戸ポートタワーの5倍以上の高さもある。そして、夜に訪れた見どころといえば、きれいなライトアップだろう。言葉では言い表せられないくらいカラフルできれいだった。もちろん、タワー自体もきれいだったが、周りがあった建物や船たちもとてもきれいだった。



佛山で有名なところ、といえば祖廟らしい。私はここを訪れるまで知らなかったが、一言でいえば、いろいろな記念館。ここにはいくつかの建物があり、一つはブルース・リーのカンフーの師匠であるイップ・マンの記念館だった。そこにはカンフーの練習風景があり、でっぱりがある木に向かって、一人で練習しているビデオがあった。また、祖廟の中にある舞台みたいなところで、広東で有名な劇をしていた。ほかには当時の祭りの様子や軍隊が並んでいる模型や孔子に関する建物があった。

佛山で有名な南風古灶に行くと、陶磁器を体験うたんの陶磁器を作った。とても難しく、何度も局最後は先生が直してくれて、とてもきれいに仕がいうには、初めてのときは、手が泥だらけになったが、練習すれば、上手にできるようになるらしなりにあった陶磁器の資料館に行った。そこにはき、いろいろな窯の種類があったり、昔はつくっ上に乾かしたりなどという資料が置いてあった。そこでは陶磁器の歴史にたくさん触れることができた。



した。私はひょ形が崩れた。仕上がった。友達っていやになった。その後、と陶磁器を焼くとた土器を屋根の

私はこのような場所に訪れて、広東や佛山の魅力に触れることができた。私はもっとこれらの場所について知りたいし、もしまたこのような機会があれば、参加したいと思う。

中国の娯楽(+おまけ)

1年生 Sさん

○食べ歩き

中国の食べ物は本当においしいので、中国人は基本的に「暴食」です。そして、老若男女問わず食べ歩きを楽しみます。

私は家から約1時間半かけて地下鉄で広州市の上下九步行街という繁華街に行き、buddyたちと食べ歩きを楽しみました。ただ、しつこい客引き(腕を引っ張られる、執拗に言い寄られる、など)にはうんざりしました…。



○陶芸体験

私は実際に作ることはせず、广东石湾陶瓷博物馆とその周辺の窑を見学しただけでしたが、市内のいくつかの場所で陶芸体験をすることができます。佛山市では陶芸が盛んで、私たちにも学校から記念品として立派な陶器が贈られました。



○広州タワー

中国国内では最も高い600メートルの高さを誇る、言わずと知れた名所です。しかし、チケットがあまりにも高く(下の表参照)、私は残念ながら登ることができませんでした。

	高さ[m]	展望台の最高地点[m]	展望台チケット(大人)[円]
東京スカイツリー	634	451.2	2,700
広州タワー	600	488	6,368(398元、1元=16円換算)
東京タワー	333	250	2,800
神戸ポートタワー	108	90.8	700

○おまけ

私は現地でインフルエンザA型に感染し、滞在5日目に発症、熱が39.4℃まで上がりました。ワクチンは打っていたのですが、5・6日目にはほとんど何も活動できませんでした。HP等の写真で登場枚数が少ないのはそのせいです。人生で初めて学校の保健室で寝たのが佛山第三中学校の保健室だったとは…(笑) 保健室には養護教諭ではなく複数のドクターが交代で常駐しており、私の様子に合わせてたくさんの漢方薬を処方してくれたり、「水をしっかり飲みなさい。」とアドバイスしてくれたりしました。現地の医療事情については、学校から車で約15分の場所にある大きな病院に行きました。受診の結果「急性上呼吸道感染」、つまりただの風邪と診断されました(インフルエンザへの感染が判明したのは



は帰国後の受診においてでした)。インフルエンザの判定は、日本では鼻の粘膜をこするだけで5分足らずで結果が出ますが、現地では血液検査をしなければならず、結果が出るまでなんと30分もかかるそうです…。病院では左の写真のように薬が大量に処方されました。

今となってはこの診察券もよい思い出です(笑)→



	料金[元]	日本円換算時(1元=16円)[円]
初診料・登録料	25	400
診察費・薬	184.6	2,953.6

←現地でかかった医療費